

法華経寺では毎年恒例の荒行が行われなかったことは、1月30日のこのコーナーで述べたが、こちら遠樹院では2月10日に成満の日を迎え、2月18日に成満祈禱会が催されたので見に行った。今回の荒行はコロナとの戦いでもあったようだ。

HPを見ると、それをつくづく感じさせられた。無事終了して良かったな～。

境内に咲く加賀前田家由来の梅も満開で、江戸時代に徳川将軍家から送られ、荒行で利用された水行用の石甕も残されている。

100日間の荒行を終えた修行僧が改めて皆の前で水行を披露し、その後表堂で祈禱が行われた。今日は風もなく穏やかな日和であった。水行も少しは楽だったろう。

<http://www.jvc-senior.com/210301ht>

2021.02.18 (千葉) HT



【注】右記載 前田利幹公により荒行堂と揮毫された文政2年は1819年で、この梅もその頃植えられたものと推測される



古木梅由来

加賀百万石を触頭とする大名前田家は、古来より菅原道真公の末裔と伝えられ、「梅鉢紋」を以てその家紋とする。

この前田家には「世継ぎ男子出生の晩には、梅の木を三本植樹する」という家訓が伝承されている。

当山境内の垂れ梅他計三植の白梅は、文政年間、加賀支藩である越中富山十萬石第九代藩主前田利幹公が、子宝成就の祈願を鬼子母尊神に祈念し奉り、その所願成就の祝禱記念として奉納植樹されたものである。

樹齢約二百年近くを経て苔むした古木梅は、今なお毎年二月節分前後から三月彼岸に至るまで、梅花競都に咲き乱れ、六月の梅雨時には大玉の青梅となつて、境内にその落音を響かせている。

因に、当山鬼子母神堂(表行堂—略称表堂)の扁額「荒行堂」は、利幹公の揮毫に依り、裏面には「文政二年己卯閏四月」の銘が深刻されてある。尚、当表堂は現皇后陛下の御実家である正田家が筆頭勧進を勤められ、明治年間後期に御奇進建立された由緒ある堂宇である。

平成九年 夏 合掌

遠壽院小住誌